

トピックコード	201
トピック題名	「心臓は電気とカルシウムイオンで動いている」
話題提供者	田中 光 先生
所属組織	東邦大学薬学部 教授
参加生徒数	18 名

トピック内容等

初めに、心臓の構造と働きを動画や心臓の模型をつかって丁寧に解説をいただきました。

その後、正常な状態と異常が起きた時の心臓実験の動画により、心臓を動かしているのは電気信号“活動電位”と心筋細胞内の“カルシウムイオン”であることを解説された。これらに異常が生じると不整脈や狭心症、心筋梗塞などの病気になるので、心臓の研究から治療薬開発を行ってること。また、薬学に必要なのは、化学生物分野と思われがちであるが、微弱な電気信号を理解する物理分野、生物の進化を学ぶ地学分野など幅広い知識や広い視野が必要なこと。でも、好きなことや得意なことが1つでもあれば、薬学の道を目指せることも。社会生活と一緒に不得意な部分は周りの人に協力をしてもらうことも重要だということも教えていただいた。

講義内容は難しい部分もあったが、実験動画など視覚的に理解できるようにしていただき、生徒たち(中学生も含め)も興味を持ち一生懸命に内容を理解しようとしていた。

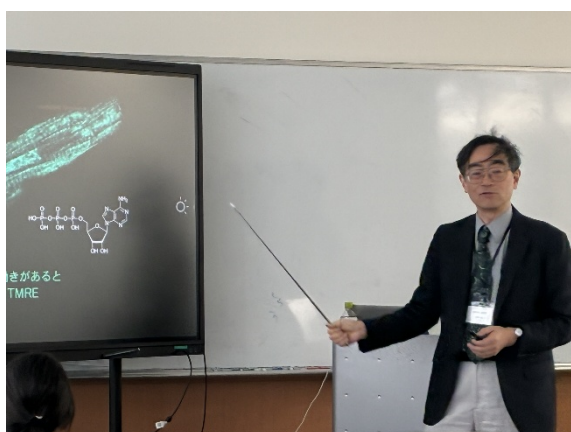
講義終了後、薬学・理学に興味を持った生徒が積極的に質問をし、それに対して丁寧に回答していただきました。ありがとうございました。

生徒の感想

・私は元々体内の構造に興味がありました。だけど、まだ学生で知識も浅いのでこれ以上この話題について深堀することを諦めていました。ですが、今回の講話を通して”興味”から”学びたい”に変えることができました。また、勉強に不安があり私にはこのような学問は無理だと思っていましたが、今回の進路についてのお話を聞いてまた頑張ろうと思えることができました。

・アドレナリンやアセチルコリンのことなどは生物の今回のテスト範囲で詳しく復習できてよかったです。シナプス小胞から伝達物質が出されて、受容体で受け取ることなどは忘れかけていたので助かりました。エピペンが実際なぜアナフィラキシーショックをやわらげることができるのかがわからなかったのですがアドレナリンを注射することで心拍数が増加して血圧が上がる役割があることを新しく知ることができました。数学が苦手な薬学部に行こうか迷っていたのですが幅広い学問から選べることを知り改めて目指してみようと思えました。

写真



トピックコード	202
トピック題名	「可能性を最大限に発揮する～生徒が自分の将来に対して積極的なアプローチを取るためのヒントをワーク等を通じて共有～」
話題提供者	飯田美心 先生
所属組織	BeautySoul JAPAN 代表
参加生徒数	9 名

トピック内容等

可能性を最大限に発揮する～生徒が自分の将来に対して積極的なアプローチを取るためのヒントをワーク等を通じて共有～見ると大学受験を控えた生徒向けの内容に思えますが、実は生徒を導く立場の教員にとっても学びが深い講話でした。生徒が自分の将来に前向きに向き合うための“気づき”を、対話やワークを通して共有する時間となりました。講話では、自分の未来を切り拓くうえで欠かせない“ものの見方”や“心の姿勢”に触れながら、変化の多い今の時代を前向きに生きるヒントが語られました。

将来を考える際には、“できる・できない”ではなく、“やりたいかどうか”という自分の内側の声に気づくことの大切さが語られ、講話を聞いていく中で生徒たちは、諦めかけていたことや、自信を失っていたことに再度、チャレンジしてみようと考えが変わり、目が輝いていきました。

話が進むにつれ、会場の空気がどんどん前向きに変化し、生徒一人ひとりが積極的に手を挙げ、意見を交わし、講話後には多くの生徒が質問や相談に訪れる姿も見られました。

「本当は若いときに聞きたかった」と感じるような、人生を変えるヒントが詰まった時間になり、生徒たちが自分自身の未来と誠実に向き合おうとする姿が非常に印象的でした。生徒の“内なる可能性”がそっと動き出す価値ある時間となりました。

生徒の感想

・私は元々体内の構造に興味がありました。だけど、まだ学生で知識も浅いのでこれ以上この話題について深堀することを諦めていました。ですが、今回の講話を通して”興味”から”学びたい”に変えることができました。また、勉強に不安があり私にはこのような学問は無理だと思っていたのですが、今回の進路についてのお話を聞いてまた頑張ろうと思直すことができました。

・アドレナリンやアセチルコリンのことなどは生物の今回のテスト範囲で詳しく復習できてよかったです。シナプス小胞から伝達物質が出されて、受容体で受け取ることなどは忘れかけていたので助かりました。エピペンが実際なぜアナフィラキシーショックをやわらげることができるのかがわからなかったのですがアドレナリンを注射することで心拍数が増加して血圧が上がる役割があることを新しく知ることができました。数学が苦手で薬学部に行こうか迷っていたのですが幅広い学問から選べることを知り改めて目指してみようと思えました。

写真



トピックコード	203
トピック題名	「人生を 10 倍楽しく生きる発想法、最強の学び方」
話題提供者	飛澤 宗則 先生
所属組織	株式会社フォース・アラウンド 代表取締役社長
参加生徒数	43 名

トピック内容等

今年度のワークショップでは、「人生を 10 倍楽しく生きる発想法」を起点に、生徒が自分の望む未来を描き、その実現に向けた思考プロセスを深める時間が提供されました。

最初の問いかけ「どちらのテーマに興味があるか」では、生徒全員が迷いなく“人生を楽しむ”方を選び、学び方よりも自己の価値観や生き方への関心が強いことが伺えました。ワークでは、事前課題をもとにマインドマップ形式のシートを作成し、「その結果どうなる?」「本当はどうなったらいい?」という問いを重ねながら深掘りするプロセスを体験しました。

生徒たちは自分の考えを丁寧に掘り下げ、グループ内で自信をもって説明しており、他者の前で語ることで自分の価値観の輪郭がより明確になっていく様子が見られました。

特に、「本当に望んでいる未来は何か」を探る場面では、単なる“やりたいこと”の列挙にとどまらず、その背景にある願望や感情に気づく姿が多く見られました。グループメンバーの言葉から刺激を受け、「自分にはない視点を知れた」「考える順序が変わった」という声もあがり、生徒同士の相互作用が深い学びを促していました。

講師が語った「成功者は失敗を学びと捉える」というメッセージは、生徒たちに強い印象を残したようです。失敗を恐れず挑戦できる生き方への興味が高まりワーク後には「自分もまずは動いてみたい」という前向きな姿勢が多く見られました。

全体を通して、飛澤氏の柔らかな語り口とユーモアのある進行が、生徒に安心感を与え、自由に発言しやすい雰囲気をつくっていました。「自分の未来を自分で描いてよい」という肯定的なメッセージが場全体に温かく広がる、非常に良質な学びの時間となりました。

生徒の感想

・とても楽しく、学びの多い講演でした。グループの人と意見交換をしたり、気づきや学びを伝え合うことでさらに学びが広がりました。やりたいと思うこと・なりたいと思うことは自由に、周りの目を気にせず思いのままにやってみようと思えました。トライ・アンド・エラーのように何度も何度も挑戦し続け、失敗してもそこからまた学んでいくことの繰り返しを大切にしていきたいです。

・自分は将来のゴールをお金持ちになることだと考えていたけれど実際は新たな経験や日常が欲しかっただけで、それはあくまでも過程や手段に過ぎないことがわかりました。マインドマップは自分の頭を非常に整理することができ、自分の将来をより深く考えることができるのでこれからも最強の学び方を続けていきたいと思いました。

写真



トピックコード	204
トピック題名	「日本と世界の水問題を考えよう～SDG6 の観点から～」
話題提供者	清 和成 先生
所属組織	北里大学 医療衛生学部 教授
参加生徒数	8 名

トピック内容等

今回の講義では、水問題について学び、日頃当たり前のように使っている水がどれほど貴重なものなのかを改めて実感した。自分たちが思っている以上に日常生活のあらゆる場面で水を使用しており、水がない生活がどれほど不便で生活の質を大きく左右するかを、具体的な例を通してイメージすることができた。

また、知識として学ぶだけでなく、講義者自身が発展途上国やアフリカの国々で行っている水質改善の活動内容や、現地で直面している課題についても聞くことができた。実際の現場のリアルな状況から、水を「きれいにする」ことがいかに大変で、どれほどの人々の生活に深く関わっているかを強く感じた。さらに、生徒たちは事前課題から授業中のワーク、質問時間まで非常に意欲的に参加していた。中には水問題をテーマに探究活動を進めている生徒もあり、講義者と生徒が相互に学び合う姿勢が見られた。

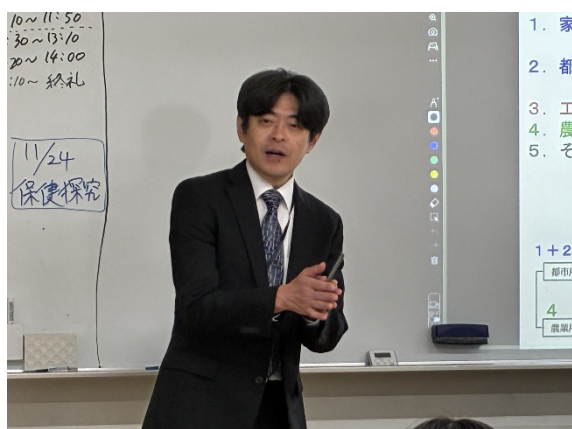
今回の講義は、身近な水を見つめ直し、世界とのつながりを考える貴重な機会となった。

生徒の感想

・私がまさに必要としている講義で、とても有意義な時間でした。私はいつも、安全に管理されている水を使用できない国側のことしか考えていなかったのですが、自分が住む日本の水の使用量など、身近な水の数値を知って、私たちは恵まれているんだと感じると同時に、なにかできることはないのだろうか考える機会になりました。

・今回の講義を受けて今まで水について深く気にせず過ごしていたのに当たり前の生活に感謝しなければならぬと気持ちが変わりました。私が一番驚いたのは無計画に土地の開発をしようとしてアラル海が消滅してしまったことです。技術が発展していない国は先を読まずにその時のことしか考えていないのかなと思いました。北海道ほどの大きさということさらにその事件の重大さを改めて感じました。日本は水資源が豊かで毎日シャワーや食器洗い、トイレで大量の水を消費しても何の問題もないけれど先生が調査に行ったネパールやガーナはそれが当たり前ではないことを知りました。私は高校生になって英語探究クラスに入りたいなと思っているのですが、このような問題と深くかかわることがあると思うので今回の体験を忘れずに将来いつか役に立たせることができるといいなと思いました

写真



トピックコード	205
トピック題名	「表現を間違えると国際問題?!-ケースで学ぶ日本語・英語のジェンダーと社会-」
話題提供者	磯野 英治 先生
所属組織	名古屋商科大学 国際学部 学部長
参加生徒数	18 名

トピック内容等

グループディスカッションを通して、日常で使っている英語や日本語の表現の中には、問題もあると気づかされ、改めて深く考える機会になりました。言葉においてもジェンダーの差があります。その差をなくし、よりニュートラルな表現にするために考えることができました。最後に、未知語を理解語彙とし、使用語彙とする過程は、人生と重なるという話がありました。自分が使用できる言葉を増やすことは、人生を豊かにすることにつながることを、講義を通して実感することができました。

生徒の感想

・「表現を間違えると国際問題?!-ケースで学ぶ日本語・英語のジェンダーと社会-」の授業では、意識せずに使っている性別の差別となる言葉がたくさんありことに気付きました。もう日常的になっている言葉もあれば、まだ使われている言葉もあることを知ることができました。私も課外に住んでいる人のように、意識して話していきたいと思いました。

・言語のジェンダー差別についてあまり考えたことはありませんでしたが、今考えてみると日常生活の周りに男女差別の用語が散らばっていて驚きました。特に印象に残ったことは女子専用の言葉や物はあるにも関わらず男性用の物や言葉がないことです。ジェンダー差別といったら女性のイメージが強いですが今回の授業で男女差別が多いかもと気づけたのでよかったです。

写真



トピックコード	206
トピック題名	「免疫細胞の暴走から紐解く免疫応答の ON と OFF」
話題提供者	若松 英 先生
所属組織	東京医科大学 准教授
参加生徒数	23 名

トピック内容等

宮崎県に生まれ大学進学の際留学。リウマチ、細胞解析の勉強をされ、東京医科大学准教授として働かれている。

《グループワーク 生徒の様子》

・病原体以外で、体の中もしくは外から免疫細胞の活性化に作用する因子を調べよう。

事前に学習してきたものを共有しながら活発に活動している。お互いに調べてきたことを発表し話し合う。

学年も関係なく混ざり合い、非常にいい雰囲気での活動ができている。

最後に調べてきたことをまとめ全員の前で発表

グループ 1 紫外線が免疫細胞を活性化させる グループ 2 β グルカン、ビタミンなどの栄養について

グループ 3 腸内菌や食物繊維からくるタンサ脂肪酸 グループ 4 ホルモンとサイトカインの違いグループ

5 短期的ストレスは免疫にいい？

《制御性 T 細胞とがんについて》

免疫の暴走を抑えてくれる。IPEX 症候群について。Foxp3 とは？

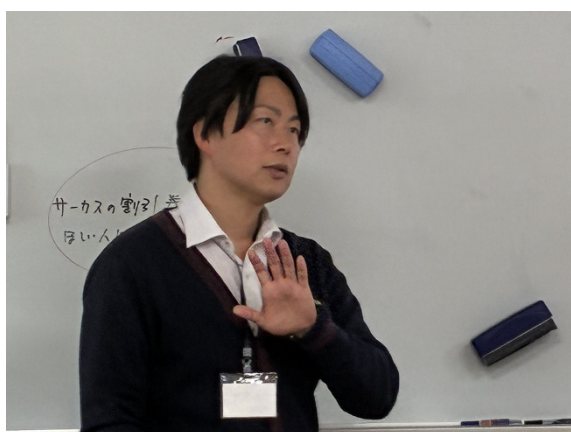
腸管で制御性 T 細胞が分化する。食物繊維をたくさん摂り、塩分を控えることで制御性 T 細胞を増やすことができる。がんや腸炎、アレルギーにならないためにはこのようなことが大事である。

生徒の感想

・今回の発表を聞いて、腸内細菌がただ消化を助けるだけでなく、免疫や遺伝子の働きにも深く関わっていることを知り、とても驚きました。特に、Foxp3 遺伝子の発現を通して制御性 T 細胞を増やすという仕組みは興味深く、腸と免疫の関係の重要さを実感しました。その時に、塩分を取ると制御性 T 細胞が異常分化してしまうことを知れて勉強になりました。

・将来の夢である、看護師について知れて良かったです。まだ、看護師には理系などの科目だけでなく、どんな科目も大切である、ということを知りました。これから、すべての教科の勉強をしっかりと行こうと思いました。

写真



トピックコード	207
トピック題名	「分子デザインが未来を創る！半導体を動かす知られざる有機化学」
話題提供者	長谷川 真士 先生
所属組織	北里大学理学部化学科 教授
参加生徒数	9 名

トピック内容等

今回の講義では、半導体について1からわかりやすく学ぶことができました。長谷川先生は図やイラストを用いながら、日常生活や身近なものを例に説明してくださり、高度な内容も自然と理解ができました。また、科学的な側面だけでなく「歴史」・「現代社会」・「経済」・「小説の内容」など、さまざまな分野と結びつけてお話しいただいたことで、半導体を多面的に、そして新しい視点から学ぶことができました。

受講した生徒の多くは理系でしたが、理系だからこそ文系的な学びの重要性にも気づくことができたと思います。

どんな学問でも、1つの分野を深く探究していくと、他の分野とつながっていくことを実感しました。まさに「学びに境界はない」ということを改めて感じました。

生徒の中には、「学校で学んでいる教科同士が関係し合うのを実際に見て驚きました。これからの授業を1つひとつ全力で、積極的に受けたいと思いました。明日の授業の物理も家庭科も貪欲に学びたい！」という感想もありました。

先生と生徒が対話を重ねながら進めたこの講義は、まさしく立場を超えて学び合う貴重な時間だったと思います。

生徒の感想

・自分は自作 cpu や自作の cpu などを作ったりするのがとても好きなので、半導体を使って何をするかについてはある程度知っていました。しかし実際に作る製法などは全く知らなかったし、フッ化水素やシリコンなどの断片的に知っている内容が繋がってとても面白かったです。自分はあまり分子などの有機化学分野はあまり興味が無いのですが、将来進みたいと思っていた半導体分野について関係ないと思っていた分野がとても密接に関わっていることが分かって面白かったです。

・日常生活でも身近にある半導体がどのような仕組みで作られているのか知ることができた。日本での半導体事情がここ最近悪化しているという話をよく耳にしていたが日本の技術開発及び販売等に対する意欲や方針が海外との差があるため中々差は縮まらないのでは無いかなと思った。

写真



トピックコード	208
トピック題名	「看護職のキャリアの多様性」
話題提供者	小玉 淑巨 先生
所属組織	北里大学 看護学部 准教授
参加生徒数	6 名

トピック内容等

現在の日本の看護師がおかれているリアルな状況を教えていただきました。看護師には専門看護師などのスペシャリストとオールラウンダーのジェネラリストがおり、日本の看護師はオールラウンダーが多く、またその全体的なレベルは世界的に見ても高いという話が印象的でした。そして、看護師業界においても現在求められているのは、ビッグデータなどを扱うデータサイエンスに詳しい人材だということを聞き、学校において情報の授業をきちんと受けることや、AIについて学んでいくことの重要性を再確認しました。

参加した生徒も将来看護師になりたいと考えている子が多く、非常にモチベーション高く講演者の話を聞いていました。

生徒の感想

・看護職という仕事に強く興味があったわけではないけれど、母が看護師ということもあり、ちょっとした好奇心で参加しました。普段からお仕事の話聞くことはあるけれど、実際に仕事の現場を見たことがなかったのも最初はあまり看護職の人たちがどこでどのように活躍しているのかあまり想像が付きませんでした。病院などのイメージが強かったけれど、研究に進む人や市役所で働く人、最近では訪問看護などが増えていると知り、仕事の幅の広さに驚きました。また、キャリアの概念についても触れることができて、新しく学ぶことがたくさんありました。ほかにも、キャリアを積むうえでの段階や途中で危機が訪れることを今のうちから知っておけたのでよかったです。

・今回のグローバルウィークを通して、看護も、社会が変わるように、必要とされているものや、あり方なども、どんどん変わっていることがわかりました。今まで、認定看護師と、専門看護師の違いがあまりあまり良く分かっていなかったけど、違いが少し理解できました。また、看護師が、役所に勤めていることは知っていたけれど、厚労省などでも活躍していることを初めて知りました。私は、緩和ケアを学んで、将来的には、訪問看護師になることが夢ですが、そのために、内科や、外科など色々な診療科で経験を積むことが必要だと分かったので、看護師になって、たくさん経験を積んで、夢を叶えられるように頑張りたいです。そのためにも、今日教えてもらったことや、日頃から学びを大切にしていきたいです。

写真



トピックコード	209
トピック題名	「宇宙がいつまでも「人類全体の星空」であるために」
話題提供者	小塚 莊一郎 先生
所属組織	学習院大学 法学部 教授
参加生徒数	19 名

トピック内容等

初めに、高校までの学びが「正解のある勉強」であるのに対し、大学では「正解のない問い」に挑む姿勢が求められることが示された。

前半は、宇宙開発の最前線とそれを支える法的・倫理的枠組みについて学んだ。

宇宙産業の変化として、10cm 四方の超小型衛星の登場・打ち上げによる宇宙の「シリコンバレー化」が紹介された。その一方で、衛星の増加によって宇宙ごみ(スペースデブリ)が深刻化し、デブリの発生を抑える国際的なルール作り除去技術の開発が重要であると知った。

後半は法律と宇宙開発の関りについて学んだ。宇宙条約により宇宙の領有が禁止されていること、日本でも宇宙基本法で民間企業の宇宙活動に関する規制や許可制度が整えられていることを学んだ。

宇宙食(サバの缶詰)や宇宙葬の例など、身近な話題も交えながら説明されていた。最後に講師は、「宇宙のことは全く知らなかったが、やってみたら 27 年続いた」という自身の経験をもとに、未知の分野にもまず挑戦する姿勢の大切さを強調されていた。

【生徒の様子】

スペースデブリを教室のゴミに例え「教室のゴミをなくすにはどうしたらよいか」という問いに対して、「ゴミを出さない」「ゴミが出たらすぐに捨てる」「リサイクルする」など、問題の本質に迫る発言があった。

生徒の感想

・実は宇宙にはあまり興味はなかったのですが、法律に興味があったので、選択していました。ゴミを出す側と掃除する側の認識、人工衛星の定義の話が、とくに興味深かったです。宇宙について初めて知ることがとても多く、勉強になりました。私は文系ですが、理系の内容や興味のないことをきっぱりと捨てるのではなく、共有することを大切にしていきたいです。

・自分は将来法学部に進みたいと思っているので、今回の話を通じて、自分が将来大学生になった時にどのようなことを学ぶのかを考える良い機会になった。また、自分には身近なものでは無いと思っていた宇宙に関して、改めて話を聞くことで、興味が湧いた。

写真



トピックコード	210
トピック題名	「【進路に悩む生徒歓迎】働くことの意味を考える:悩める3人の社会人とのディスカッション」
話題提供者	長橋博史 先生、他2名
所属組織	株式会社 Assertive 代表取締役
参加生徒数	17 名

トピック内容等

最初に、異なるキャリアをお持ちの3人のパネラーの方から、それぞれのキャリアについて、また働くことの意味について話をうかがいました。その後、まず3人の間で模擬パネルディスカッションという形でお互いに質問をし合ってそれぞれのお考えを深掘りしてくださいました。3人のパネラーはとても仲がよく、お話もおもしろかったので、生徒たちも楽しみながら興味を持って真剣に聞いていました。そのあと生徒からの質問をフォームで受け付けてくださり、その中から抜粋してお答えいただきました。

生徒からは「営業として最も大切な素養は何か」「好きなことを仕事にするべきか」など、率直な質問を投げかけていて、それに対して親身にお答えいただきました。とてもいいアドバイスや経験談がいくつもあり、生徒にとってはとてもよい刺激になったように見えました。中高生にはまだ遠く、けれども進路選択をする際には意識せずにはいられない「働く」ということのリアルに触れることができる、とてもいい機会になったと思います。

生徒の感想

- ・好きなことを職業にしたほうが良いというのはよく聞くことだけど、そんなこともないと分かって安心しました。好きな理由を分析したり、いろいろな好きなことの共通点を見つけたりすることが、職業選択のヒントになると教えていただいたので、実践してみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ずっと自分は一人で何かすることの方が得意と思っていたがこのトピックを通して人と関わることの方が好きなのではないかと感じた。一つの好きなことでもそれぞれ違った方向から見ることで自分の好きなことに共通する何かが見える気がした。

写真



トピックコード	211
トピック題名	「看護師と救急救命士と一緒に学ぶ、いのちの授業～いのちのバトンをつなぐ～」
話題提供者	澤井 由利先生/窪田 陽平先生
所属組織	日本災害連携協会つなぐ 代表理事/一般社団法人 BYATANDER 理事
参加生徒数	17 名

トピック内容等

看護師の澤井由利さんは、「いつ何が起きるかは誰にもわからない」と語り、救急外来での体験を紹介した。60～70 代の男性が娘の結婚式に向かう途中、タクシー内で心肺停止に陥ったという。澤井さんは「何としても生きたかった瞬間」に立ち会い、「伝えたいと思ったときに伝えること」の大切さを痛感した。この経験から「後悔しない生き方」を決意し、「知っていることで助かる命がある」と呼びかけた。また災害時には病院も被災するため、「自分の身は自分で守る」意識が重要だと語った。

救急救命士の窪田陽平さんは、「命」を救うことと守ることの二つの視点を示した。高校時代、駅で倒れた男性に何もできなかった無力感が原点であり、救命士として約 250 件の心肺停止現場に携わったが、社会復帰できたのはわずか 2 件だったと述べ、初動と胸骨圧迫の重要性を強調した。また「守る命」については、自死の背景にある「孤独」に触れ、「周囲には必ず悲しむ人がいる」と伝えた。つらいときは声を上げ、周りの人にも声をかける勇気を持つことが大切だと訴えた。

生徒たちは、自分や周囲の「いのち」と真剣に向き合い、命の重さやつながりを実感していた。互いに支え合うことの大切さを学び、「いのちのバトンをつなぐ」ことの意味を深く考える時間となった。

生徒の感想

・実演が行われた時に立ち上がることができなくてとても悔しかったです。誰に何が起きるかわからないことから、AED を使用するまでの手順など正しい知識をつけて次こそは立ち上がれるようになりたいと思いました。私は看護師になることが夢なので、こういった医療、救急の知識を身につけ、精神共に向上していきたいです。本日はありがとうございました。

・今回の講義は自分にとって本当に意味のあるものでした。最初に澤井さんが救急隊員としての経験を話してくださったとき、命の重みや現場の緊張感が伝わってきて、胸がいっぱいになり、思わず涙が出そうになりました。いざという時にどう行動すればいいかは頭でわかっていたつもりでしたが、実際に練習となると緊張で体が動かず、行動できなかったのが本当に悔しかったです。心臓マッサージも交代しながら行うのが想像以上に難しく、テンポを合わせる大変さも感じました。だからこそ、こうした練習を重ねて準備しておくことが大切なんだと思いました。今回の経験を通して、知識だけでなく実際に体で覚えることの重要性を実感したので、これからはもしもの時に少しでも人の力になれるよう、しっかり行動できる自分を目指したいです。

写真



トピックコード	212
トピック題名	「これで良いのか？性の知識とジェンダーギャップ;私の体は私のもの」
話題提供者	坂本愛子 先生
所属組織	行徳総合病院 婦人科 産婦人科医
参加生徒数	2 名

トピック内容等

「性について、ごまかしたりぼかししたりしない言葉で説明します」と産婦人科医のお立場からお話くださいました。

- ・産婦人科は病気だけでなく体のことを相談できる
- ・外／内性器、月経の仕組み、月経困難症の治療の種類と治療内容(25 才未満の4割が月経痛を感じる。生活に支障がある月経のつらさは、すべて治療の対象。)
- ・妊娠の仕組み(内視鏡の画像を用いて) ・性的同意、ふれあいの断り方・断られ方のスキルを身につける
- ・事例と各ケースの相談先(例:とうきょう若者ヘルスサポート、ワンストップ支援センターなど)
- ・昔は軽視されていた「性的からかい」や「性的いたずら」を性暴力と認識していない大人もいる。

娯楽とされていた「性的モノ化」、デートDV、KuToo 運動など

《繋がる力を持つ、相談できること、支え合うこと》

用心していても思いがけないことが起きることがある。その時に「誰かとつながる力」を持っていてほしい

→「井つながる BOOK」／(一社)日本家族計画協会や、本校でも配布した「コロカラ BOOK」／正進社 も参考に。

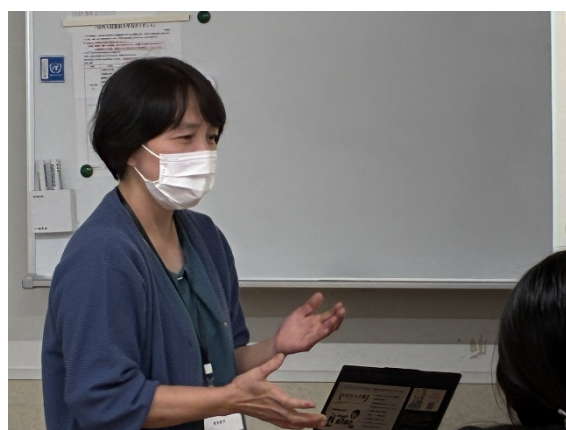
“自分のことは自分で決めていい”、“私の体は私のもの” その気持ちを守れる社会へ皆、『自分の性に関することは自分で決める権利』(SRHR: 性と生殖に関する健康と権利)がある。正しい情報を知っていることは“守る力”になる。生徒も現場の医師によるリアリティのある情報が得られ、大変満足した様子でした。

生徒の感想

・今回のお話を聞いて性のことを自分が知っていたより深く理解することができました。もしもの時に相談できる場所が沢山あることを知って自分もちろん困っている子がいたら伝えてあげたいと思いました。これから先自分が誰と付き合うとか子供を産むのかは分からないけど正しい知識を持つておくことは大事だなと感じました。坂本さんがおっしゃっていたように周りの人に流されず自分の事は自分で責任をもって決めていきたいと思います。

・今日性教育を学んだ。保健体育で学んだことはあるが、こんなに詳しく学んだのは初めてだった。悩んだときに相談ができる場所がたくさんあって、なんかあったら人に聞けていた。それを前までこんなにあると知らなかったため、これを知っている人が増えればより、被害者も減り、みんなも悩まないのかと思った。性的被害も多いことを知ったが、そのような友人もないため、この知識は知られていないと思う。だからこそ、私から困っている人に発信することで、身近な人だけでも助かる人が増えると思った。語り掛けながら、お話をしていただいたおかげで分かりやすく興味を持ちやすかった。

写真



トピックコード	213
トピック題名	「レゴブロックを使ってキャリアを考えるワークショップ」
話題提供者	北山 聡 先生
所属組織	東京経済大学コミュニケーション学部 准教授
参加生徒数	29 名

トピック内容等

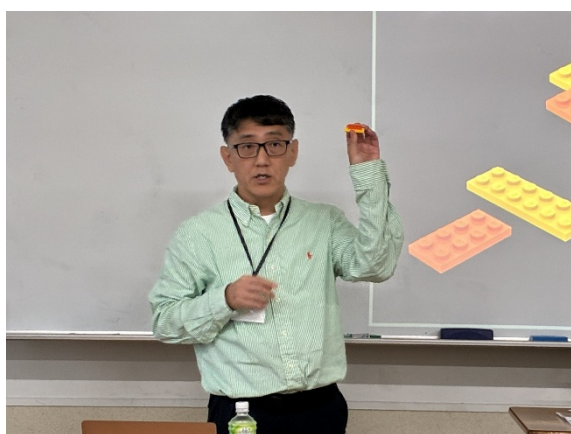
レゴブロックを使ったキャリア形成の授業では、生徒たちは自分の気持ちや考えをレゴで表現し、その作品について説明する活動を行った。限られたパーツでタワーを作る課題や、自由に作ったタワーをなぜその形にしたかを説明する課題を通じて、「目標を立てて最短距離で進む」という固定観念にとらわれず、試行錯誤しながら進むキャリアの重要性を体感した。授業では、高校生だけでなく、多くの中学生も参加し、楽しみながらレゴブロックで表現する姿が見られた。架空の生物をレゴブロックで形にすることができた成功体験を通じて、生徒はキャリア形成を「やってみて学ぶもの」として前向きに捉えることができた。

生徒の感想

・教室に着いて、ワークショップが始まると急にレゴが入ったケースが渡され、何が今から始まるのかと不思議に思っていたのですが、実際はレゴで色々なモノを作ってキャリアについて考える斬新な講座で面白かったです。自分自身、進路について考えているといつも将来がどうなるのかが不安だったのですが、このワークショップを通してキャリアに対する考えが変わり、少し不安が和らいだ気がします。また、目標を早い段階で決めなくても人生何とかなるとおっしゃったセリフが心に刺さり、勇気を持つことができました。

・今の自分の目標は本当に自分がなりたいものか分からず、ただ自分が嫌なことから逃れるために立てたものなので、今日話を聞いて少しすっきりできました。と同時に、現在将来進みたいと思っている分野のことも、それ以外の分野のこともよく知らなかったので、しっかり調べるようにしようと心に決めました。また、LEGO が建築とかの分野で使われているとおっしゃられていたので、どのようにシミュレーションに使用しているのか気になりました。

写真



トピックコード	214
トピック題名	「畑で栽培するお薬の話 医薬品原料に用いる薬用植物の国産化について」
話題提供者	菱田 敦之 先生
所属組織	東京農業大学 教授
参加生徒数	10 名

トピック内容等

菱田先生は漢方に使われる植物を国内で栽培する方法を研究されています。今回は、薬用植物栽培の重要性と、薬用植物を日本国内で栽培できるようになるまでの道のりなどについてお話しくださいました。現在日本で作られる漢方のうち、国産の原料はわずか10%ほどだそうです。より多くの薬用植物を日本国内で育てることが重要です。農家さんなどが大量に安定的に育てるためには、栽培・管理方法を確立する必要があります。

多くの漢方は中国の野生のものを収穫して使っているので、栽培ノウハウがなく、気候も原産地とは異なるため、気温、水、肥料、土など、あらゆることを試さなければなりません。また、畑にはとにかく「雑草」が生えてしまうので、草取りが重要なようです。また、栽培できるようになるだけでなく、収穫するための機械まで開発されとのこと。

きちんと草取りをして管理し、目的の成分を多く含む薬用植物を育てられるようになるには、多くの苦勞と長い道のりがありますが、やりがいとはとてもあることが分かりました。

薬に興味がある人は薬草の栽培に興味を示すことが少ないため、現在やるべきことは沢山あるのに研究する人が少ないという夢のある状況です。薬草栽培に強い興味を持った生徒たちは講義後も菱田先生に質問し、研究室の様子や就職のことなど(就職はとても良いそうです)、話が尽きない様子でした。

生徒の感想

・薬用植物には様々な種類があり、効能なども様々だと知れました。除草、病気対策などのために試行錯誤されているのだとわかりました。

・一つの目標のためにも様々な問題を一つずつ地道に解決していく必要があります、それが難しいけれど大事なことなんだなと思いました。

写真

